

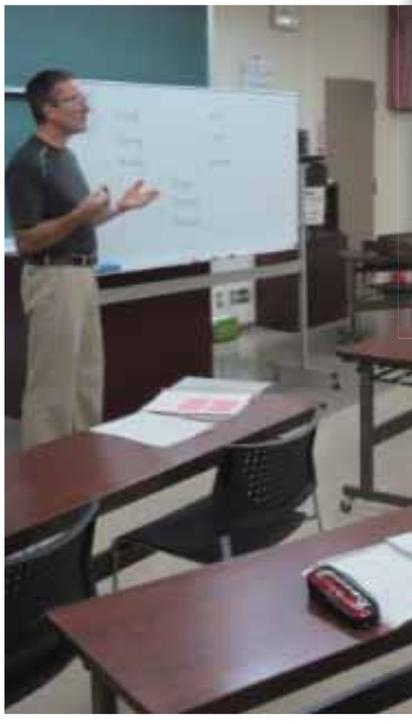
発行／小諸市公民館
編集／館報編集委員会
〒384-0801
長野県小諸市甲1275-2
☎0267-23-8880

No.851

こもろ女性の家講座

『入門・大人の英会話』

講師：マーシー・ティム
(耳取区英会話クラブ講師)



— 内容 —

- p.16 新年のご挨拶
【ご案内】 2月公民館講座ほか
- p.18 『ぼくとわたしの作品』(小諸養護学校)
『俳句・短歌』(渚会・小諸土笛短歌会)
- p.19 『人ひと』(平原区 石井寛能)
【お知らせ】 第56回児童生徒新年書初め展
- p.20 『今支館・分館では』(谷地原分館)
- p.21 1月小諸市文化会館スケジュールほか

新年明けましておめでとうございます。令和3年、新しい年が輝かしい朝日とともに幕を明けました。皆様は、どのように新年をお過ごしでしょうか。私は、例年のごとく元旦の朝はゆつくりと起きて、ぼーっとした頭でお屠蘇とお雑煮をいただき、年賀状に目を通して、テレビを見ながら、こたつでうたた寝といったところです。やっと、午後には目も覚めてきて、重い腰を上げて初詣へ出掛けます。「良い一年となりますように。健康で過ごせますように。」と幾つもの願いを込めて手を合わせます。帰りにはお決まりの力餅を買って、父のお墓へ向かい一緒に頂きませう。またここでも「どうぞ、家族をお守りください。」と手を合わせます。

私は、これからの一年間の目標を決めて動き出すあたり、心がけたいことがあります。平凡な日常ではあっても、まさかのまさかということがある時は、柔軟に軌道修正しながら進みたいということです。そのためにも心の窓口を広く開けておきたいと考えています。

昨年は、コロナ禍で制約の多い日々が続きました。各地域の公民館行事も中止となり、公民館報の内容も変更されました。これから私達は、面倒でも新しい生活様式を常に意識せざるを得ません。どうか、今年は、コロナ禍の終息が予測できない困難な現状の中でも、いつも通りの公民館行事が一つでも多く行われますようにと願いたいと思います。

今年も、一年延期された東京オリンピックパラリンピックが開催される年でもあります。多方面からの知恵を総動員して、日本のおもてなしの文化も加え、世界平和の祭典が行われることを楽しみにしたいと思います。



編集委員 鷹野 夏恵



「新しい年を迎えて」

小諸市教育長 小林 秀夫

市民の皆様には、感慨深く新春をお迎えになったことと
思います。

旧年中は、公民館活動にさ
まざまにかかわっていただき
まして、ありがとうございます
でした。

さて、新しい年は十二支で
いう「辛丑」です。「辛」は
同じ音の「新」につながるこ
とから、「植物が枯れて新し
い世代が生まれようとする状
態」を表しているといわれま
す。「丑」もまた、「芽が伸び
ようとしていた形を表してい
て、曲がっていたものを伸ば
すことから、『始める』『結
ぶ』などの意味を表す」とさ
れています。さらに、「厳し
い寒冷の中で、草木の根が紐
のように結び合って、春を待

って耐え忍んでいる様子を表
している」ともいわれていま
す。

昨年の公民館活動は、新型
コロナウイルス感染症拡大防
止に伴う様々な制約の中で行
われてきました。公民館まつ
りのように、中止を余儀なく
されたものもありました。

世界中の人々が一日も早い
終息を願っていますが、ワク
チンの開発の様子を見ても、
簡単なことではないようです。

これから先、感染拡大の状
況によっては、従前どおりに
公民館活動を行うことが、さ
らに難しくなることも予想さ
れます。しかし、どんなに困
難な状況が生まれたとしても
それにふさわしい解決策は必
ずあるはずです。通常時には
決断できなかった未来型の改
革や工夫が、活動を可能にし
てくれるかも知れません。困
難な状況を、私たちの知恵と
創造力を生かす好機ととらえ
れば、ピンチはチャンスへと
変わっていくはずですよ。

昨年、小諸市教育委員会
は長期計画の前倒しを決断し
て、市内小中学校に通う児童
生徒全員分のタブレット型の
パソコンを用意しました。ま

たローコスト環境を整えて、
教室から家庭までどこにい
てもICT機器が使えるよう
にしました。ICT機器は、授
業で有効に使われるだけでな
く今後学校が休業になった時
にも、家庭での学びを保証す
る機器として活用していくこ
とになります。

生涯学習においても、ICT
機器や、NPOなどのア
プリは、今後の運営に向けた
新しい可能性を広げてくれま
した。昨年行われた「小諸藤
村文学賞」では、審査から発
表、表彰式までNPOとプロ
ジェクトを併用して、効
果的に進めることができました
。慣れないことへの挑戦で
すから、そこに至るまでの準
備は大変でしたが、審査員や
受賞者が画面を通して交流し
これまでにない印象深く、心
に残るものとなりました。

公民館活動においても、
様々な工夫がなされてきまし
た。「コロナ禍だからこそで
きる」ことをさらに増やして
いけば、それは、コロナ終息
後の発展に向けた未来への道
しるべとなるはずですよ。

「辛丑」の字義を念頭に、
新しい年をとともどもに進んで

まいりましょう。市民の皆様
のお力添えを、よろしくお願
い致します。

「できないことよりも
できることを探したい」

小諸市公民館長 松本 文一

市民の皆様には、希望に満
ちた新春をお迎えのこととお
慶び申し上げます。多くの方
が「今年こそは平穏でいい年
でありますように」と思いを
強くされているのではないか
と思います。

一年前、中国武漢市での流
行や2月のダイヤモンドプリ
ンセス号での集団感染の報道
を目にしても、当時はまだ他
人事に感じ自分たちの生活に
今ほど大きな影響を与えると
は思いもありませんでした。

自粛生活が始まってからこの
間、文化センターの休館や事
業の中止・延期等により大変
ご迷惑をおかけしました。こ
んな時だからこそ公民館が皆
様のお役に立たなくてはなら
ないのですが、3密を避ける
ために限られたことしかでき
ず歯がゆい思いもしてきまし
た。支館・分館活動において
も、計画した事業も思うよう

に実施できず、役員の皆様を
はじめ大変ご苦勞されている
ことと存じます。

未だ終息の見通しは立たず
コロナ禍の中の生活はまだ
まだ続きそうです。新しい生
活様式を取り入れ、できる限
りの感染防止策を講じなけれ
ばならないことは言うまでも
ありません。しかし、いつま
でも不安や怯えているだけの
生活を続けるわけにはいきま
せん。できないことダメなこ
とはたくさんありますが、
「あれもできる、これもでき
る」「こんな時だから普段や
らないことを」とみんなが知
恵やアイデアを出し合い充
実した年にしたいものです。

講座や研修・イベント等
のご希望ご意見をお聞かせいた
だき、皆様のお役に立つ公民
館活動となるよう努めてまい
ります。本年も市民の皆様
のご支援ご協力をよろしくお願
いいたします。



今年度は、新型コロナウイルスの影響により、各地区のイベントや行事が中止となつたため、私たち編集委員が取材に出掛けられず、掲載原稿が集まらないことから紙面構成に苦心いたしました。地域文化・伝統などを取りこめ、地域コミュニティに密着した公民館報を届けたいと思います。地域文化・伝統などを取りこめ、地域コミュニティに密着した公民館報を届けたいと思います。



令和2年度『公民館報こもろ』の編集委員のみなさんをご紹介します。※()内は支館名です。



2月公民館講座

◆小諸市文化センター

☎0267-23-8880



申込みは平日9:00~17:00。申込み多数の場合は初心者優先とし公民館にて責任抽選いたします。また、申込み少数の場合や新型コロナウイルス感染拡大防止により講座が中止や変更になることがあります。

こもろ女性の家 珈琲セミナー

～我が家で美味しいコーヒーを飲もう!～

【講師】丸山珈琲 バリスタ

◇開催日時 2月4日(木)

【午前の部】10:00~11:30 or 【午後の部】19:00~20:30

※どちらかの時間帯をお選びください。

◇場所 料理教室

◇定員 各8名

◇材料費 1,500円

◆申込み期間 1月12日(火)~1月21日(木)

公民館登録団体『こもろ銭太鼓』より

参加者募集!!

◆代表 土屋 ☎090-1653-9692



「銭太鼓」体験教室

◇開催日 2月13・27日(土)

◇時間 13:30~15:30

◇場所 小諸市文化センター 講習室1・2(和室)

◇受講料 無料

◆申込み 2月5日(金)まで

「秋のフォトフレーム」



中学部一年 大我
しまむら 島村

木々の葉が黄金に色づいたある秋のぼかぼか陽気の日に、校舎の裏手にある小さな森に、クラスのみんなで松ぼっくりやどんぐりを拾いに行きました。この森を知りつくしているクラスメートの「どんぐりならこの辺りだよ！」という案内のもと、落ち葉をカサカサといわせながら小山を登っていき

「青い鳥」



中学部二年 亮馬
また前 亮馬

亮馬さんは、毎年学校の中庭にやってくるツバメを見ることが大好きです。昨年は中庭に面した教室だったので、休み時間になると中庭で飛んでいるツバメを楽しそうに見上げていました。

今年も教室が2階になり、中庭に遊びに行くことは減りましたが教室には友だちが図書館から借りてきた「鳥の図鑑」や「きれいな鳥」という本がいつも置いてあり



小諸養護学校

ます。大我さんも先生と手をつなぎ、足先で地面の様子を探りながら、ゆっくと進みます。「ほら、ここにあるよ」という声を頼りに腰をかがめ、どんぐりをひとつつ拾いあげると、にっこり。

こうして集めた木の実で、秋のフォトフレームを作りました。左手の指先でフレームをそっとなぞり、右手でつまんだどんぐりや松ぼっくりを置いていきます。千日紅の花もポイントに。これは、教室の外にある小さな畑で育てたものです。大我さんはこの畑に毎日

ました。その本や図鑑を参考にし今年度の製作は好きな鳥を貼り絵で表すことにしました。

鳥の台紙は胴体と羽の部分を分けたものにしました。亮馬さんは青い色が好きで、折り紙やキラキラの色紙も青い色のものを選んでいました。それを小さく割いたりハサミで切ったりして、鳥の羽をイメージしながら一枚ずつ丁寧に貼っていきました。細かいことが得意な亮馬さんは、長い時間集中して楽しそうに貼っていました。完成した鳥の胴体と羽を合体させて貼る時には、台紙となる黄色い色画用紙からはみ出るくらいに大

お水をあげています。ペットボトルにお水を入れる感触、それを逆さにしてトクトクとお水が流れ出ていく感触が好きで、いつも笑顔であげています。大我さんのある秋の日と、日常を閉じ込めたすてきなフォトフレームです。



きく羽をはばたかせて貼り、迫力のある「青い鳥」を完成させました。大空を悠々と飛ぶ青い鳥が素敵です。



俳句 渚 会

- 秋ダリア萎れ客の帰りしごと淋し 大池 信子
- 新米の粥の蓋鳴る夕茜 岡部 芳子
- マスクかけ目は笑顔でと諭されし 尾沼 せつ子
- 繰り返し見るカタログの秋の服 田中 利子
- いま花野氷河期生きしベニヒカゲ 森田 幹子
- 早起きの一人のあたら秋の虹 木内 光子

短歌 土笛小諸短歌会

- 「ありがとう」一日何回言うだろう 柳沢 つる子
- 介護を受ける歩行車のわれ 田中 邦
- 雨の夜亡夫の仕草がふと浮かぶ おでん大根食べているとき 田中 邦
- 大津波去りて静もる海に向き トランペット吹く少女忘れず 小野山 玲子
- 新米を一口頬張りにっこりと 今年も皆で良く働いたねと 小林 りつ子
- 金色の稲田にずっと白鷺の 飛び立たむとしてゆらり羽ばたく 井出 宣子
- 新型の治療薬なき肺炎に 年に一度の旅行うばわる 松村 泰子



平原区 石井 寛能さん

今日は、県外から移住された石井さんのお宅を訪ねてお話を聞きます。「石井さん！こんにちは」ご夫婦で出てきてもらいました。

石井さんは、どちらから小諸に移住されましたか

石井夫婦で千葉県から平原区に移住してきました。11年前の暦の上では一番寒い大寒の日に来ました。

小諸に移住した印象はどうですか

石井 早速区長夫人から頂戴した名簿と地図を頼りに11軒の隣組へ引越しのあいさつに伺うと、千葉から移住して来ることは既に知らされており「暖かいところから、こんな寒いところか？」「永住するの？」「長野に親戚は？」と矢継ぎ早の質問に答えると「よくだに〜」の耳慣れない方言の返事に戸惑ったことが懐かしく思い出されます。また、翌日には玄関先にどなたから？白菜、キャベツが『どん!!』と置かれており、都会では考えられない「温かいおもてなし」に戸惑いながら歓迎されているのかなと一安心しました。

日常生活で感じたことってありますか

石井 日常生活では告別式の定刻時間に行くと、どなたも姿が見えず結局は私たちが一番最後だったり、道ぶしんや落ち葉さらい、用水さらいに出ないと『出不足金』徴収など千葉では経験したことのない風習にびっくりしました。『田舎暮らし』を考え始めた平成7年頃は、ほとんどの自治体は相談窓口など当時は無く、『移住したいのですが』と自治体職員を訪ねると『変な人が来た』という感じ、不動産屋でも、畑付きの土地や家屋の紹介、あっせんをお願いしても、当時は、『この地域は、よそ者は受け入れないから無理』と言われたものです。今や全国津々浦々自治体がテレビや雑誌で『田舎暮らし』歓迎の風潮を見ると、隔世の感があります。

石井さんは、たくさん趣味をお持ちだと伺っていますが今は、何をされていますか

石井 念願叶って『小諸びと』になったからには地域のことを知らなければと、シニア大学佐久学部に入學（奥様はその翌年）し、長野県の地勢、歴史習慣、史跡文化を学び、区の行事にも積極的に参加しています。その甲斐あって私たち夫婦の小諸生活は、各常会のつながりも増え、シニア大学のネットワークや文化



日曜大工で作った（上から）テラス・ストーブ

センターの公民館講座にも参加していて、多くの人との出会いがあり友人の輪が広がって、我が家のカレンダーは2人の交流範囲の証でそれぞれの予定がぎっしり書き込まれています。（お互い干渉せず、でも夫婦仲は良いそうです）趣味の日曜大工でテラスを作ったり、畑で野菜を栽培したりして大病もせず充実した日々を楽しく過ごしています。

石井さん、最後の質問ですが、小諸はどうですか

石井 小諸に移住して、よかったです！

今回のお宅訪問で、居間にあった薪ストーブの暖かさとお二人の笑顔に癒されました。石井さんありがとうございます。

第56回児童生徒新年書初め展

市内に居住する児童生徒、市内の学校・書塾へ通学する児童生徒の新年への希望や決意を込めて書いた作品を展示します。

□開催日 令和3年2月5日(金)～2月7日(日)

□時間 9:00～17:00 (最終日は16:00まで)

□会場 乙女湖体育館 (小諸市文化センター内)

□問い合わせ先 児童生徒新年書初め展事務局 (小諸市文化センター内) ☎0267-23-8880

※今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、表彰式は中止いたします。

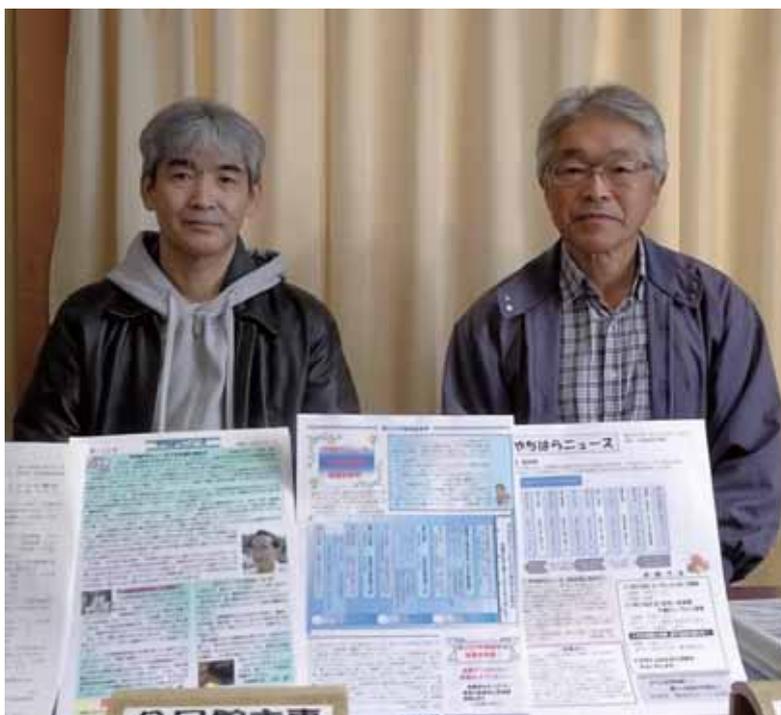
今支館・分館では

『やちはらニュース 第300号』に寄せて

— 谷地原分館 —

夏祭りの成果報告をしなれば、来月の敬老会と次の運動会の予定も早く発信しないと、そんな谷地原区の広報

活動の柱となっているのが、毎月・全戸配布の『やちはらニュース』です。令和2年11月1日発行をもって第300号を迎えました。25年半に渡り区民の皆様が親しまれ、地区のかわら版的役割を果たしています。



(左から) 公民館主事兼広報部長 井口 寿永さん/公民館長 塩川 文俊さん

創刊号(第1号)は平成7

年6月、当時区長の川村さんがスピーディーな情報発信ツールとして熱い想いを込めて始められました。平成8年10月(第4号)より毎月発行となり、行事報告やお知らせ、周知徹底事案の早期発信を主として、時にはゴミ収集の間違い訂正や新区民の紹介、新役員紹介や同好会の勧誘など、多彩な情報を発信しています。

歴代公民館主事兼広報部長がその任を継続して、写真やイラストを多く取り入れ、手に取って親しみ易い広報紙を目指し改善奮闘しています。その努力の積み重ねの結果、第300号発行に至りました。CTKや小諸新聞、信濃毎日新聞にも取り上げて頂いたこともあり区外から評価されています。

コロナ禍の影響で行事がすべて中止に追い込まれる中、『やちはらニュース』もその例外ではありません。この苦境をなんとか乗り越えてこれからも継続していけることを願っています。次の目標は目指せ第400号…。

編集委員 宮沢 芳文

谷地原公民館長・塩川さんと主事兼広報部長・井口さんに『やちはらニュース』にかける想いをお伺いしました。



『やちはらニュース』は、区の情報提供紙として初版からその役目を果たし、区行事を始め活動の様子を毎月生き生きと伝えてきました。記念となる第300号には本来であれば区民運動会等の記事が載るはずでしたが、新型コロナウイルスの影響で春からの行事も全て中止になり、かないませんでした。『やちはらニュース』の25年を振り返っても、これほど区の活動や区民の皆様の日々の暮らしに影響を与えているものはないでしょう。

早くこの状況が改善され、区民の皆様が、区行事・公民館行事を通じて老いも若きも以前のように、元気ハツラツ和気あいあいとしている姿を記事に載せたいものです。

公民館長 塩川 文俊



谷地原区広報誌 『やちはらニュース』

『やちはらニュース』が第300号を迎えることが出来ました。私が担当してまだ2年半ですが、区民の皆様を始め、区の役員の皆様に助けられて、何とか毎月発行することができたと思っています。行事の閑散期などニュースの少ない時の枠決めには苦労することもありますが、正確な情報の収集と発信に細心の注意を払いながら、広報活動に奮闘しています。歴代の編集者から引き継がれ、25年もの長きに渡り継続してきた『やちはらニュース』を今後とも続けていけるように努力して参ります。

公民館主事兼広報部長 井口 寿永

第27回 小諸・藤村文学賞 《作品募集》



- 作品内容 作品ジャンルは、エッセイ（随筆）に限る
 - 募集対象 一般の部
 - 入選作品 最優秀賞：1名／優秀賞：2名／佳作：若干名（各部）
 - 応募方法
 - ・400字詰め原稿用紙A 4判又はB 4判縦書き（手書きの場合、鉛筆不可）
 - ・一般の部：原稿用紙10枚程度（上限11枚）
 - ・原稿用紙右側余白に縦書きで「郵便番号・現住所」次の行に「氏名（フリガナ）・年齢・性別・電話番号」を明記
 - ・応募作品は1人1編で、未発表の作品に限る
- ※入賞作品著作権は、主催者「小諸市」に帰属し、応募作品の返却はいたしません
- 賞状・賞金 一般の部：賞状及び副賞（賞金）
 - 締切日 一般の部：令和3年1月31日(日)（当日消印有効）

▼作品送付先及び問い合わせ先
〒384-8501 長野県小諸市相生町三丁目3番3号
小諸市教育委員会 「小諸・藤村文学賞」事務局宛
TEL 0267-22-1700(内線2281) / FAX 0267-23-8857



一文化センターだより一

「こんにちは！」文化センターです。
11月16日(月)に、登録団体・サークルのみなさんによるボランティア活動が行われました。
楽屋のカーテンの修理と第一・第二駐車場の落ち葉清掃を参加者96名が約1時間の作業をしてきれいにしました。このボランティア活動は、毎年、春と秋の年2回実施していますが、今年は新型コロナウイルスの影響で秋1回の実施となりました。参加者からは「マスクを取って、みんなで大きな声で話せる日が早くきてほしいね！」こんな声も聞かれました。



寒い中でのボランティア活動の様子

小諸市文化会館1月スケジュール

日・曜	開演	イベント名	主催者	問い合わせ先
3(日)	14:00	令和3年小諸市成人式	小諸市教育委員会 文化財・生涯学習課	0267-22-1700
10(日)	8:30	小諸市消防出初式	小諸市消防課	0267-24-0119
14(木)	13:30	小諸市介護予防ささえ愛 サポーター研修	小諸市高齢福祉課	0267-22-1700
22(金)	18:00	音楽のまち・こもろ ミニコンサート	小諸市教育委員会 文化財・生涯学習課	0267-22-1700
24(日)	13:30	ふれあいコンサート	消防団音楽隊	0267-24-0119
26(火) 29(金)	13:30	介護事業予防説明会	小諸市高齢福祉課	0267-22-1700
30(土)	12:30	「音楽のまち・こもろ」 佐久地区重唱発表会	佐久教育会佐久音楽教育研究会	0267-56-3131 (立科小学校)

受付開始日 【公民館・こもろ女性の家】 令和3年3月利用予約1月4日(月) (貸出備品含む)
【乙女湖体育館】 令和3年7月利用予約1月4日(月)

※文化会館ホールの令和4年1月利用予約は、ホール舞台装置の改修工事(令和3年12月1日～令和4年3月31日)のため受付けておりません。ご理解ご協力をお願いいたします。